

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成 24年4月27日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675100087号
法人名	医療法人慈和会
事業所名	慈和会グループホーム
所在地	鹿児島県伊佐市南浦3492 (電話) 0995-26-0051
自己評価作成日	平成24年2月24日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	2012年3月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月1日より「永田診療所グループホーム」より「慈和会グループホーム」に名称も変わり、状況も環境も変わってきました。医療法人慈和会の運営には変わりはありませんが、以前より、続いている地域との関わりを大切にしながら、日々努力はしています。隣接している神社に参拝帰りに気軽にホームに立ち寄って利用者と会話を楽しんでもらうようにしています。2ユニットありますが1ユニットは、かつての「永田診療所」の病室を改造して作られた物で不便さを利用者にて与えていましたが、昨年12月より改修工事が行なわれて見違えるようになり、今まで我慢していただいたので全てが使いやすくゆったりとグループホームらしくなりました。これからはもっと地域と一緒に協力して利用者が生きがいを持って楽しく生活できるように支援して行きたい

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは田園を開発した住宅地にあり、今まで築いてきた地域とのふれあいを大切にし、地域に根差したグループホームの姿を理想に掲げ、利用者がなじみの人や場との関係を継続しながらホームで楽しく生活できるよう支援している。ホーム内は広くゆったりとスペースがあり、居心地の良い空間作りがなされている。今後は広いホールを生かし、地域住民参加型のふれあいを充実して行こうと計画中である。自治会に加入し、神社の秋季奉告祭りにも住民の一員として参加している。また、地域で開催される「おきな草祭り」の絵手紙コンテストに利用者も応募し、3名が入賞、1名が表彰されるなど、楽しみながら生きがい作り、利用者の自信になるよう支援している。地産の旬の食材を使用し、美味しい家庭的な料理を提供し、利用者・家族に好評を得ている。管理者、職員は「自分たちが楽しくないと利用者にも満足してもらえない」との意識をもって、自分達が楽しくサービスに専念できる職場でありたいと自己研鑽に努めている。グループホームとしての立地条件にも恵まれていることから、今後益々充実したサービスを提供できるホーム運営が期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ確認し、理念を掘り下げて職員同士で話し合い具体的なケアについて意見の統一をする。	理念をホールに掲示し、職員は理念を共有出来ており日々のケアにつなげている。管理者は地域密着型サービスの意義を理解しており、理念の見直しも検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の運動会、敬老会等に参加している。ボランティアを月2回は受けている。専門学生の研修、同業者の訪問研修も受けている。	地域の「おきな草祭り」では利用者が絵手紙コンテストに参加している。地域の婦人会、住民のボランティア訪問もある。小学生の体験学習の受け入れをし、利用者も学校関係の行事に参加しているほか、保育園児との交流もある。隣接神社の秋季奉告祭りに参加するなど地域とのつきあいができている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。また人材育成の貢献として実習生の受け入れもしている。随時地域の方々から認知症の相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催している自治会・民生委員のボランティアの参加・自治会の回覧板配布やホームの行事内容の広報を配布してそれに対して意見を聞いて参考にしている。	定期的に民生委員、隣接神社の神主、利用者、家族代表、行政の参加を得て開催している。ホームの現状報告や行政からの情報、地域との交流情報、ホームの安全対策についての話し合いができている。避難訓練にからませた会議では、分団長の講話を貰い安全な生活向上に活かしている。	

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議・伊佐市GH連絡協議会と一緒に研修等に参加してもらいホーム便りを届けたりホームの現状やサービスの取り組みなどを報告して協力を貰っている。	生活保護受給者もおり、報告や市担当者の助言や指導を得ながら協力関係を築いている。定期的に行政と連携を図り、伊佐市グループホーム合同研修会も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象を理解してミーティング・申し送りでその日のケアを振り返り拘束がないか、拘束でないか確認している。日中玄関等全ての鍵を掛けていないので外へ出られても止めずに話を聞いて一緒に出かけるようにしている。	ホーム内に「身体拘束排除宣言」を掲示している。危険防止の為に車椅子使用や、薬剤による弊害なども理解しており、可能な限り使用しないケアに取り組んでいる。日中は施錠せず、職員の見守りで安全な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修等の報告の際虐待の事には触れて話し合っている。本人は思っていないかもしれない。言葉の虐待には十分気をつけようと話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ対象者はいないが研修等は常に参加している、対象者がでたら出来る限り支援していきたい。		

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は本人・家族に契約書・重要事項の説明・利用料金や事業所で出来る事できない事重度化や看取りの対応・医療連携などを説明し、状態変化により退居になった場合は母体病院・包括支援センターと連絡対応して転居先を相談している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族と、家族会参加時や来訪時に個別面談したり、それぞれ受け持ち制にしているので家族の意見や要望を聞いている。家族の意見等に対して職員で話し合っている。	毎月ホーム便りを発行している。年1回昼食会をひらいたり、催し物を入れた家族会を開催している。家族会や面会時、電話連絡時に家族の意見、要望を聞いている。意見や要望など職員間で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族・職員の意見を聞きながら要望を運営者に出している。ホーム全般相談しながら進めている。	朝夕の申し送りと問題が生じた時には、昼休みを利用して職員間で話し合う機会を持っている。提案事項については代表者に報告、改善につなげている。	定期的な職員会議を設定し、よりサービスの充実・向上に取り組める職場環境作りを期待したい。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが利用者に対してより良いケアができるように資格取得の支援・ストレス解消・気分転換に機会を作って食事会をしている。		

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画は作成している。外部の研修は経験に応じた研修に参加しホーム内の勉強会の際に研修報告してもらい、職員の技術や知識の向上に努めている。資格取得のチャレンジを支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>3箇所の連絡協議会に加入して研修・講演会・事例検討会などの交流を通じてケアスタッフだけの意見交換会やホームの見学研修を参考にしてケアに活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった場合は必ず本人に会って心身の状態や今置かれている状況を把握する。入所前にホームを見学してもらって雰囲気を体験してもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様にホーム見学をして他の利用者の様子などをみていただきながら、どう対応していくか事前にあらかじめ話し合い理解してもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内での生活状況を見てもらいながら本人が困っている事不安な事に対して会話や行動の面から把握して改善・維持などの支援、提案として母体の認知症デイケアの利用も進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしながら、料理の味付けや、蕎麦打ち・行事・習わしなどを教わったり一緒にしながら学んでいる。「有難う」「お世話になります」の言葉に励まされたり支えられたりしている。		

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日々の暮らしの中での出来事、気づきの情報を介護経過に書きとめ訪問の際に報告して話し合い協力を貰いながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の認知症デイケアの利用の続行と地域の行事に参加と面会の受け入れをしている。	地域行事、絵手紙教室、デイサービス利用の継続支援などを行っている。以前住んでいた家を見に行ったり、友人知人に面会したりなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。家族の協力をもらい、墓参りや行き慣れた温泉に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話の中に職員も入り歌や踊り・折り紙などで皆で楽しく過ごす機会が持てるようになってきた。唄っている所に皆が集まってきて一緒に楽しまれている。利用者同士の関係の情報を共有し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら入院先へ面会に行ったり本人が来れなくても家族が立ち寄ってくださる。死亡退所された家族もホームに来て思い出を話しに来られる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で声かけして言葉や表情などから把握して認識している。その言葉を介護経過に記録して家族や職員とその真意を話し合っている。	日々生活する中で利用者の気持ち、状況をしっかりと感じ取れるようにしている。自分で思いや意向を伝える利用者もおり、運営推進会議に参加をもらい、意見を聞く機会を持っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・それまでいた施設・病院などにより生活歴・ライフスタイル等を聞き取り、バックグラウンド・状態を早く把握してその人らしい生活支援が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを早めに把握して生活や行動を観察しできない事より出来る事を見つけて自信・生きがいを持ち生活を楽しめるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人をよく知る家族と担当スタッフの気づき・意見を聞きながら課題となる事を、他の職員と話し合っその人らしく生活できるように支援していく。	モニタリングは個々の必要性に応じて随時行っている。地域とのふれあい、外出支援に力を入れた計画になっている。地域行事、自宅訪問、買い物、ホーム内での役割をサービス内容に上げ、在宅復帰を前提にした利用者の介護計画もあり、現状に即したプランを作成している。	



鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルして食事・排泄身体記録・日々の暮らしの様子・本人が発した言葉等記録して早く変化に気づくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方や県外の家族の場合は必要に応じて通院や入院手続き・送迎など出来る事には対応して不安軽減する為に支援している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の人と楽しく交流しながら生活できるように民生委員・包括・自治会など運営推進会議に出席してもらって良い交流機会が増えてきている。地域の運動会・小学生・園児との交流・敬老会など良い関係が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが母体病院からの入所であるので受診・通院介助・訪問診療のケースもある骨折などの外科的診療や歯科など複数の医療機関で支援が受けられている。	月2回、定期的な訪問診療を受けている。状態変化に応じて系列法人の医療機関、訪問看護師により適切な受診や、看護が受けられるよう支援している。他科診療はホームより同行受診し、家族に報告している。	

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常的に関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院と離れているので月2回訪問診療を受けている。状態変化の場合は訪問看護師とすぐに連絡が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	骨折や肺炎等で入院すると認知症が進行して退院してくるのがほとんどである。時間の許す限り面会に出かけ入院先からも認知介護の相談も受けて対応している。ホームで介護できる状態になったら医師と相談して家族の協力をもらってリハビリ通院している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末の対応指針は母体法人でと契約時に同意を得ているが家族の気持ちの変化や本人の思いにも心配りして支援できるように話し合っている。	契約書に看取りに関する指針を掲載し、入居時にホームの方針を説明し同意を得ている。職員も方針を共有し、ホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力・母体法人の救急手当や蘇生術のが職員全員が対応できるように定期的に研修している。救命処置（AED完備）		

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力のもと昼・夜間想定した避難訓練・経路・消火器使用法などの実施（年2回）地域の協力・母体の法人施設に協力体制が出来ている。</p>	<p>年2回、避難訓練を地域住民、運営推進会メンバー、母体法人職員の協力を得て実施している。過去、水害にあったこともあり、地域の支援がもらえる体制ができている。スプリンクラー、自動通報システム、食品・飲料水の備蓄もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前で傷つけてしまう介護や声かけに配慮する、ミーティングの際日々の関わりを反省しながら職員が本人のプライバシーを他の家族や外来者に話さないようにしている。	「言葉の虐待」について常々話し合いをもっている。利用者の人格を尊重し、対認知症患者対応のプロとして自覚しより良いケアに努め、プライバシーの配慮が必要なサービスについても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて声かけ、意思表示が出来ない場合には表情を見ながら食べたい、食べたくない眠たい眠たくないなど把握しながら出来る限り本人が決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応ホームの1日の流れはあるが利用者の体調の把握、その場の本人の気持ちを聞きながらその人に合う支援で対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が出来る事は見守り、出来ない事は支援している。出かける時はよそ行きに着替えや化粧をしている。本人や家族の希望があれば髪のカットをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の家族から頂いた野菜やお米などを食材にしている。野菜の下ごしらえ、味見、片づけを手伝ってもらいながら苦手な物は調理を工夫している。同じ食卓で同じ物を感想を聞きながら食事を楽しんでいる。	身体状況により、利用者に食事作りに参加してもらっている。箸、湯飲みなどは、自宅より持参したものを個々に使用している。交流のある他のグループホームと合同で外食を楽しむなど、場所を変えることでの気分転換を図るなど支援している。味噌作り、ソバうち、餅つきなど利用者に教わりながら行っている。	

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェックしている。食欲のある方ない方、食べ易いように調理したりまた1ヶ月に1回母体病院の管理栄養士に指導を受けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前・食後のうがいの声かけ、個別に誘導し見守り介助をしている。就寝前には歯磨き・義歯の洗浄をしている。口腔ケアも随時受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレ誘導、排泄の意思表示のない利用者は時間を見て出来る限りトイレで排泄できるように支援している。オムツ使用者も表情観察しながら交換している。	日中は全利用者、職員の声掛け誘導でトイレでの排泄を支援している。オムツ使用者も尿とりパットを活用し、自立に向けた試みを図っている。夜間のみポータブル使用している利用者も数名あるが、工夫を重ねながら排泄の自立支援に取り組んでいる。完全に自立している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材やヨーグルトなどの乳製品を多く取り入れるようにしている。水分補給や散歩などの運動、ラジオ体操を取り入れて出来る限り自然排便できるように支援している。		

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	冬場は週2回入浴日を決めているが伊佐は寒さが厳しいので気温を見ながら決める事もある。夏は3回しているが失禁や希望に応じて随時対応している。	個々の希望や身体状況に応じた入浴支援を行っている。入浴剤を使用して楽しんでいる。家族の協力を貰って温泉を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中散歩したり活動してもらってゆっくり休息できるようにしているが夕方から不穏状態が続く寝付けない場合は会話をしたり添い寝をする事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服の処方をファイルして職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には名前を確認して手渡しきちんと間違いなく服薬しているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	味噌づくり・蕎麦打など利用者の経験や知恵を貰って一緒に、また踊り・歌の披露など出来る事はしてもらっている。「有難う・助かりました」の言葉は添えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や気分に応じて、季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるように日常的に近くの神社に散歩に出かけたりしている。	日常的に隣接の神社で散歩を楽しんでいる。季節の花見、遠足、地域行事への参加、他の施設との交流、食事会に出かけている。個別支援として自宅訪問や墓参りなども支援している。	

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームの行事の花見・紅葉狩りスーパーへの買物など小遣いはホームで管理しているので自分で支払い可能な利用者には本人の財布に小銭を入れて買物を楽しんでいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙の書ける人は電話で会話を楽しんでもらったり、手紙は自筆で書いてもらって宛名書きは支援する出来ない利用者は家族に年賀状を送ってもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングから台所が見えて音や臭いを感じられ、季節ごとに皆で作った作品を飾っている。マイコップ・マイはしを使っている、季節の行事を取り入れて野菜や花が食卓で見れるなどの工夫をしている。</p>	<p>明るく、開放的なダイニング、リビングからは外の景色が見渡せ、季節感・生活感を取り入れ、居心地よく過せる共用空間になっている。廊下やホールには利用者の作品や思い出の写真などが掲示され利用者、職員は楽しみ、また来訪者はホームでの日常生活をうかがい知ることが出来る。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下やホールにソファや椅子を置いてそこで本を読んだり昼寝が出来るようにしている。玄関にベンチを置いて外の景色をみて気分転換を図っている。</p>		

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や利用者の好きな物、馴染みの物を置いているDIYケアなどで作った作品など飾ってある。	身体状況に応じて畳敷きの居室もある。テレビ、ラジオ、机、椅子、家族の写真、飾り物などを置き、利用者の個性を感じる暮らしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の際に転倒防止のため廊下には最小限必要なものだけを置くようにしている。皆と一緒にくつろぐホールにはパズルや本などが好きな時に利用できるように置いてある。		



**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 慈和会グループホーム 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない